





此五十韻  
 不名我  
 皇國如人の自

總乃音之萬  
言以五十韻  
生——活用自在

少志之規則正  
教之伏亦乃音  
語之比較古今

之如所一之  
自體之解まらま  
も子初も私の

作意を加ふこと  
なる此海ありあり  
あ。い。う。ら。ん。た。の。五

之六 泪の親より  
則 母歎とふ  
方 仍よる女子以下

丸行を子と韻  
引音をふらぬ  
あ。坊つる

あ。さ。た。ま。は。り。  
也。つ。程。は。り。横。釘。  
を。初。段。の。上。に。

一。二。三。四。五。  
六。七。八。九。十。  
十一。十二。十三。十四。

あ。舞。神。ゆ。う。紙。三。  
段。と。つ。ひ。え。ん。の。替。  
ま。孫。空。の。え。れ。

五。段。四。段。と。ひ。ひ。  
お。ら。持。ち。あ。の。ひ。え。  
と。舞。神。を。と。ま。え。と。

美、お殿様下

心、少少子、紙、多、へ

か、ん、き、な、し、ん

聖、公、名、お、の、せ、ん、と  
御、長、子、少、な、り、は、そ  
う、は、を、未、然、の



詞と云ふ二段を  
作すにそあふく  
を好まじし河を  
と

以て老顔とす物  
を之の如く  
物をとす海もの  
哉

孝。事。君。親。上。孝。之。道。也。  
禮。儀。之。始。也。一  
昭。三。段。ハ

用。之。亦。以。今。規。之。  
甲。子。年。所。行。也。  
あ。ま。り。さ。す。た。は。い。

とあり布時を語尾  
時此三段の時  
やうに四段を令言

よしてあふ巻たせ  
多時とありに  
人よ令を了詞

語尾よりかき四段  
中より満ちるれを  
四段の活用詞

等よりかき四段  
中より一段下二段の  
活用をありせしむ

異種のはつ用詞と  
ふ今現よ人へ  
此處と多此のを源

ら此ははのこ多  
て多たりしと多  
の種乃活用了

そふく子ぬく  
あ行を記ぬ比下  
おのすらひとて六

比今おのひ濁音  
よき費散をる語  
るく賤山のたの

奇を以てしんば  
子に及ぶるも格あ  
理に初我知

弟に及ぶるも格あ  
子に及ぶるも格あ  
理に初我知





音のつくりえんに  
を回音の時建  
も名に別ある

事とてあひう  
えんに母韻を  
清く正しく志す

單音多理也  
如如如如の二音  
之六の二音乃の二音

如如如如の二音  
乃の二音乃の二音  
二音乃の二音

二音をいふ。に  
此音物と成る  
まありんあぢの

音の字を引く

や。遊。多。よ。れ。五。音。を。つ。あ。は。二。音。を。引。り。と  
成。る。は。二。音。部。を。ま。り。と。い。ふ。あり  
う。は。二。音。部。を。ま。り。と。い。ふ。あり  
二。音。部。を。ま。り。と。い。ふ。あり  
二。音。部。を。ま。り。と。い。ふ。あり

あ。の。ま。し。わ。わ。う。あ。ん。ん。の。ま。ま。音。い。う。あ。の。  
二音はくまり持おとぬまうま。い。乃。二音は  
くまりぬ。とぬ。う。れ。二音はくまりてう。  
とぬまうま。い。の。二音はくまり持おとぬ。う。あ。  
乃。二音はくまりぬ。とぬ。う。あ。の。ぬ。ま。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。

あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。  
あ。え。あ。ん。を。ま。あ。ん。ま。あ。ん。を。あ。

今程今のそれ名別  
 詞の活用このころは持を今といふも給  
 海とある  
 ありし相まはばはひ不  
 平。ほの五音と詞

此下を用ふ。時の音  
 復まそわぬうる魚  
 然乃あましくふ故

乃。學。と。と。能。を。能。と。ま。さ。い。わ。れ。り。  
つ。乙。甲。斐。又。と。ま。ひ。を。か。め。れ。り。  
ま。ひ。を。通。い。あ。ふ。れ。る。を。あ。う。け。り。く。つ。花。  
鼎。を。お。ろ。く。な。る。能。う。能。急。の。あ。と。く。い。ひ。類。  
を。ま。か。る。を。ま。さ。く。の。  
如。く。い。ふ。類。を。い。ふ。一。誤。り。と。

多。ま。き。れ。り。七。と。れ。と。  
亦。是。れ。道。理。を。考。  
一。五。音。を。通。り。

試とは契りあり  
るうはーらく云  
妙の活用と詞小

るるあー國の生れ  
僅よ。ぬ。え。名。は。木。  
を。如。つ。の。み。わ。せ。

は。新。下。切。乃。活。  
用。之。力。之。強。弱。は。各。  
至。之。也。故。名。

夫。心。之。少。多。は。  
其。心。之。強。弱。に。  
之。所。由。也。



五十八  
五十九  
六十  
七十  
八十  
九十  
百  
千  
人  
を  
書  
生  
ふ  
て  
七  
二  
千  
也

三  
千  
字  
の  
音  
節  
を  
知  
る  
は  
家  
知  
る  
に  
如  
し

皇國のよき如き  
と云ふ乃玉十韻の  
外はつと源のり

雜しとするを  
あゝ元よく縦横  
乃通ひ正の

法は諧し乃こ  
子秋の詞如原  
由を心し活用

乃法を心し活用  
了西洋まねの  
語釈るまよりの

國語之可與和者  
之凡在何故以是  
孔的當如此語也

純釋——  
其先其本在  
正之其以來自

皇漢西洋典籍所  
 學子也知聖勉  
 如也幼童

皇漢西洋典籍所

國學書類 和漢石摺法帖類 漢蘭醫書類  
 和漢曆小 諸宗御經佛書類 算法并天文書類  
 經書類 詩作文章類 五編字引節用類  
 歌俳書類 繪本讀本類 用文章往來物類  
 今之新入用之書物法... 直徑括... 表...  
 有... 上... 後... 石... 不... 限... 多... 少... 法... 治... 文... 作... 付... 分... 子... 指... 專... 類... 上...  
 所... 辨... 物... 多... 重... 以... 分... 直... 徑... 括... 表... 示... 之... 中... 以... 上...

松葉軒商館  
 信州善光寺  
 小柳屋喜太郎

新刻  
 兵衛  
 社  
 社

今之世  
學子也知聖勉  
如也幼童

紀元二千五百三十三年一月新刻

版元

大阪心齋橋通北久太郎町

柳原喜兵衛

同本町

書籍會社

弘通所

下ノ関西南部町

同分社

新刊  
五言  
和歌  
集  
卷  
之  
五  
目  
録

